

巻頭言

関西看護医療大学看護学研究科
関西看護医療大学看護学部 成人老年看護学

小平 京子

2021年も「コロナ禍」の中に飲み込まれましたが、その現象への憤りから、現象の客観的分析、そしてその現象への効果的な対処法の開発と、より良い暮らしのための新たな視点の獲得へと、世の中はあたかも研究プロセスをたどるかのような変化を見せています。それはまるで、人間が持つセルフケア能力を状況に合わせてバージョンアップして現にある状況に適応していくプロセスのようにも見えます。今年度の紀要は、変革を求める看護職者の第一のステップである、関心ある現象を文献検討から客観的に分析した論文が掲載されています。良い研究を進めるうえで関心ある現象の分析と客観化はその基盤です。最近読んだ著書の中に「血液はなぜ赤いのか」という疑問が載せられていました。残念ながら、知っていると思っていたのにも関わらず、他の人に納得していただけるほど十分な説明（血液に含まれる赤血球はヘモグロビンをもっており、主に鉄を含む「ヘム」とたんぱく質である「グロビン」からできている。血液が赤いのは、このヘムが赤色素を持っているからである）ができない自分がいたのです。看護に関わらず、物事の本質を見極めるには、このような適切な分析と納得できる説明が不可欠なのだと思います。研究においても、その取り組みを続けることによって、新たな何かをつかみ取ることができるのではないかと考えています。

紀要への投稿およびその編集に関わってくださった皆様にお礼を申し上げます。